

事業の背景・目的

サクラ等の樹木に深刻な被害をもたらす特定外来生物クビアカツヤカミキリは、平成27年に福生市において初めてその存在を確認されて以来、大量発生しており、市内に存する桜、梅等の樹木に被害が生じている。特に、多摩川堤防沿いの桜並木については被害が深刻である。

このため、このまま被害木を放置したままで何ら対策を取らない場合は被害が拡大していくことは必至であり、生物多様性の観点からも深刻な影響をもたらされると考えられる。

以上のことから、被害木に対し継続的な防除を行うことにより、クビアカツヤカミキリ拡散の封じ込めを行う。

事業の内容

- ・防除の実施（薬剤散布・防除ネット設置等）
- ・生息・被害状況調査
- ・市民向けの取り組み
(広報・HP等による注意喚起、市民説明会の開催)
- ・隣接市との情報交換
- ・生息・目撃情報マップの作成
- ・福生市クビアカツヤカミキリ防除マニュアルの改訂



薬剤散布



市民説明会

得られた成果

- ・令和3年度の時点で被害が確認されている多摩川堤防沿い桜並木の被害木に対し防除ネットの設置及び薬剤注入等の防除を実施した。また、被害木を中心に見回りをを行い成虫の捕殺を行うことで対象樹木の保全を図った。
- ・被害状況調査により市内公共施設において確認できた被害木について薬剤注入を実施し、特に被害の大きいものについては伐採を実施した。
- ・ホームページ、広報、町会へのポスター掲示等で市民に対しクビアカツヤカミキリに関する注意喚起を行った。また、クビアカツヤカミキリ防除の専門家を招き、防除に関する市民説明会を開催した。
- ・被害状況調査結果及び市民からの情報提供を集約し、生息・目撃情報マップを作製した。作成したマップは、クビアカツヤカミキリの監視体制を強化するため近隣自治体と情報共有した。